

日本映像民俗学の会 2023年度 第1回 研究会のご案内

本会の研究会は、日本映像民俗学の会が2000年代当初に開催しました映像民族誌映画を観て「映像表現の多様性」を議論するワークショップ（不定期に開催）を行ってきました。昨今映像表現を取り巻く技術的・社会的環境が劇的に変化し、新たなパラダイムが模索されています。例えば、フェイク画像、AIによる映像構成・著作権など多方面の課題がそれですが、今後巻き起こることの諸課題には、これまでのワークショップであつかった映像作品にも内包されていました。さらなる映像表現の拡大につながる興味のある課題として再考しようではないかとの考えあがり、継続的に諸課題解決の糸口をさがすことになりました。

コロナ禍での研究会活動の停滞もあり、これを打破するためにも映像作品を観て議論を深めるワークショップを2023バージョンとして開催することにしました。初回は、民族誌映画の黎明期に活躍され長期にわたる事前調査と参与観察法を実践したロバート・フラファティ（Robert Flaherty）の2作品をとりあげ議論を深めたいと思います。

【日時】 2023年5月20日（土） 13:00～（12:30開場）

13:00～13:20 代表挨拶（北村皆雄）、企画立案者解説（亘純吉）

13:20～14:40 *Nanook of the North*（1922） 78min

14:40～14:50 ≪休憩≫

14:50～16:05 *Man of Aran*（1934） 73 min

16:05～16:20 ≪休憩≫

16:20～17:20 ワークショップ（参考上映含む）

※17:30～ 懇親会予定

【会場】 四谷スポーツスクエア 会議室R（47席）

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-4

アクセス：JR「四ツ谷」駅 徒歩約2分

<https://yotsuya-sports-square.jp/#access>

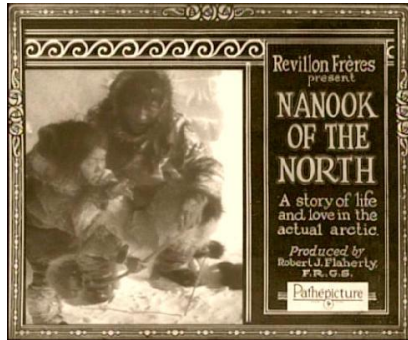


【資料代】 会員：無料、非会員：500円

【ワークショップ】

フラハティとジガ・ヴェルトフの作品の映像表現とその手法

【上映作品】 *Nanook of the North* (1922) 78min



フラハティが1922年にイヌイット（エスキモー）を題材として制作した映画。

彼は民族学者ではない。しかし、撮影以前に数年にわたる現地での生活を体験をとおして相互の信頼関係を構築した後で撮影に臨んだ。一般にフィルムには、「撮影する者」と「撮影される者」との関係性が滲みである。

＜この関係性はあらためて議論する＞

フラハティは、相手を観察するまえに自分が観察され、受け入れられる対象になるという信頼関係を構築する必要性を実践した。さらに、撮影した映画を、撮影された側の人びとに映写し、相互に批評し解説すること、つまり研究成果のフィードバックを展開した。これは、現在の民族学でいう参与観察法を知らぬまに撮影に利用したことことにほかならない。

その結果、カメラそれ自体も第三の登場人物となって、未知の人間同士の絆を深める役割をはたしている。厳しい自然に立ち向かうイヌイット・ナヌークとフラハティとのお互いの協力関係が見事に映像化された秀作である。

フラハティが1922年にイヌイット（エスキモー）を題材として制作した映画。

彼は民族学者ではない。しかし、撮影以前に数年にわたる現地での生活体験をとおして相互の信頼関係を構築した後で撮影に臨んだ。一般にフィルムには、「撮影する者」と「撮影される者」との関係性が滲みである。

フラハティは、相手を観察するまえに自分が観察され、受け入れられる対象になるという信頼関係を構築する必要性を実践した。さらに、撮影した映画を、撮影された側の人びとに映写し、相互に批評し解説すること、つまり研究成果のフィードバックを展開した。これは、現在の民族学でいう参与観察法を知らぬまに撮影に利用したことことにほかならない。

その結果、カメラそれ自体も第三の登場人物となって、未知の人間同士の絆を深める役割をはたしている。厳しい自然に立ち向かうイヌイット・ナヌークとフラハティとのお互いの協力関係が見事に映像化された秀作である。

【上映作品】 *Man of Aran* (1934) 73 min



フラハティが1934年に制作した映画。

アイルランドの西岸沖のアラン島で1931～1933年にかけて約1年半この島に住み撮影をおこなった。

映画は、「アランの男」を登場させ、厳しく、過酷な自然のなかでたくましく生きぬく男とその家族の姿を描いた。

映像の記録手法として特定の人物を登場させ、その人物の個性をもって、生活を語り、文化像を表現する立場をとった。その結果の見る側との一体感を作りだした。

作品では、アラン島の人びとは、漁業と農業を生業する伝統的な生活を不屈の魂をもって守りぬいているもの、としてとらえ、それこそが *Man of Aran* であるとしている。この制作思想は、「出来事の再現」すなわち「失われゆく文化」の記録へと突き進み、島民の記憶を頼りに生活の諸相を再現する。

映画では、ウバザメ漁が重要なシーンとして登場してくる。伝統的な生活では、サメから採った油が必需品であったが、今日では使用していない。フラハティは一世代前の行われていたこのサメ漁を再現すべくアラン島民を説得し、作品の主題の一つとしている。

フラハティは、アラン島の文化を映画（彼のイメージ）の中で再編し、彼の思想の世界観によって作りあげてしまった。そのため映画には、過度の誇張と彼自身のイメージが投影されている。彼は、アラン島の生活が孤立し閉鎖していると仮定し、同島の生活の変容に眼を向けることが十分ではなかった、といえる。この意味で、映画「*Man of Aran*」は、アラン島の文化を民族学の立場から納得のいく形で描ききった、とはいえない。

【参考上映作品】 *KINO PRAVDA*1-5 (1922)

ジガ・ヴェルトフの映像理論

1922年からキノ・プラウダ：*KINO PRAVDA*「真実の映画」運動を展開する。この運動は、日常のありのままの姿（真実）を映像化するとする姿勢。市場、バー、学校で、隠し撮りなどで人びとの今の生活を映像に固定する。撮影は、虚飾なく、語りも客観的な叙述によって、社会の問題点を浮上させる映像表現をとる（考現学的手法）。

ヴェルトフは演劇的・物語的な演出要素は「民衆を麻痺させる」ものと考え、虚飾の無い、つまりありのままの現実の映しだす表現を追及した。



疑似ドキュメンタリー映画

ドキュメント フィクション

ドキュメンタリーとフィクションの映画的な組み合わせ

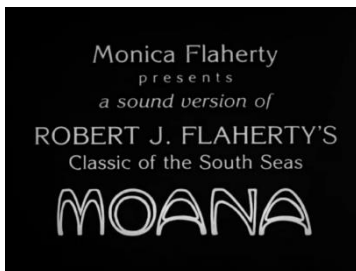
ダイレクト シネマ

シネマ ヴェリテ

あるがままの現実を捉えようとする映画ジャンル

ある種の芸術的表現を使用して現実の表現を強化するために、非現実的な要素やフィクションの状況を作品に包括することもある。

【参考資料】 *Moana with Sound* (1926, 1980) 92min



Moana は、
ロバート・フラファティーによる 1926 年の作品。
[https://en.wikipedia.org/wiki/Moana_\(1926_film\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Moana_(1926_film))
<https://en-m-wikipedia->

[org.translate.google/wiki/Moana_\(1926_film\)?_x_tr_sl=en&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=sc](https://org.translate.google/wiki/Moana_(1926_film)?_x_tr_sl=en&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=sc)

撮影はサモア、サバイ島 1923～1924 年で一家（妻:フランシス H.フラファティーは共同制作者と娘）で現地に住み込み行われた。映画の完成は 1925 年。

Moana は、第 1 作目の *Nanook of the North* と同様な制作姿勢をとり、サモアの人々の生活をそのまま記録することにとどまらず、登場人物を意図された「未開」とキャスティングしている。いわゆるエキゾチックな未開の慣習が再現されるシーンを多用している。特に身体表現の文化は、伝統的な樹皮布（タパ布）の着用、若い娘のトップレス、通過儀礼的な解釈で捉えた入墨の施術など「未開」と「文明」の対比という形で意識的に表現されている。



【参考資料】 1920 年代に制作され、当時欧州の新しい流れを作った作品

フェルナン・レジエ Fernand Léger 1881-2-4/1955-8-7



フェルナン・レジエの作品

Ballet mécanique 1924

→音楽 着色 などの付加



https://www.youtube.com/watch?v=wi53TfeqgWM&ab_channel=Everythinghasitsfirsttime

【参考資料】 1920年代にドイツで制作され、前衛的な表現の作品

→音楽の付加

- ① ハンス リヒター *Hans Richter* (1928)

『午前12時の幽霊』 *Ghosts before Breakfast*

https://www.youtube.com/watch?v=JJ0Bf_pNdt4&ab_channel=TomasFriberg

- ② ヴィキング エッベリング *Viking Ebbeling* (1924)

『対角線交響楽』 *Symphonie Diagonale*

https://www.youtube.com/watch?v=MtBjFv46XLQ&ab_channel=JorgeFranganillo

【映像民俗学の会ワークショップと諸課題】

サイレント映画に音楽 着色 などの付加と作品価値の拡大

照明や同時録音などの撮影技術の課題による、いわゆる「やらせ」

夜間シーンの撮影

意図的な解釈による演出と記録する現場

AIの進歩による記録性とは

映像による時代と文化の記録がもたらすもの

文化的（民族／民俗）アイデンティティと創出に寄与する映像とは

ネットで結ばれた精神世界の拡大